

そもそも「イオカ・C21」の開発に至ったのは、六年ほど前にアトピー性皮膚炎やアレルギー疾患などに悩まされている方を見て、なんとか皮膚科に通院しなくても日常生活の中で治すことができるものかと考えたことからです。そうすると専門的な知識が必要ですから、医学博士に相談しましたら、「人間の健康を支えている免疫から入っていかないと治らないよ」という助言をいただきました。強い抵抗力を持つ免疫をつくること、つまり土台から治さないとけないということでした。

そこでは様々なアドバースをいただき、その結果、「マイナスイオン」と「遠赤外線」効果を融合させた繊維を開発することに着目しました。マイナスイオン粒子と備長炭の炭素粒子をナノテクノロジーによって繊維化した素材が「イオカ・C21」です。

繊維化する前に、両素材でクリームをつくってマウスで実験したり、あるいはイオカの繊維で包帯をつくって同じくマウスで実験してみました。これらの実験効果は、医学博士の先生が日本臨床免疫学会や日本バイオセラピー学会学術集会で発表されました。もちろんマイナスイオン測定検証をはじめ、血液変

## 時間とコストをかけ 実証実験で効果を確信



野中 重則 氏

株式会社 グラフティ21 (ツエンティワン)

代表取締役

化検証、追跡検証、皮膚試験検証など、幅広い分野で公的機関を使用し、医化学的実験を行ないました。

効果を実証するための時間とコストがかかりましたが、これだけの医学的・科学的な検証を重ねましたので、信頼できるデータが揃い、その結果、日本アトピー協会の推奨品と、国際保険協会から認定を受けることもできました。医学的・科学的な根拠があり、マイナスイオンと遠赤外線効果を十分に享受できる繊維素材ができたと自負しています。

この繊維素材は通常の糸の10倍の価格ですので、テキスタイルにするとコストがかかります。イオカの含有率を少なくしてテキスタイルをつくり、コストを落とす取引先が出てくることも考えられますので、イオカを使用する場合の契約では38%以上使用するようにお願いしています。38%にしたのは実証実験でつくった包帯がこの含有率で効果があつたからです。繊維の大量販売はしたくありませんので、効果を享受できる製品の質にこだわっていただける取引先としつかり取り組んで、流通チャネルに応じた製品展開ができるようにしていきたいと考えています。

(談)